

沿海集落の立地特性と空間構成に関する研究(その1)

日大生産工 (学部) 荻野 将志
 日大生産工 宮崎 隆昌
 日大生産工 (院) 山本 健司

1. はじめに

我が国の多くの沿海集落では、磯・浜近傍の非常に限られた領域内に漁港・漁協・店舗・住居が密集し、生産と生活の場が一体化した高密度住空間を形成している。沿海集落に居住する住民の大部分は様々な型で展開している水産業(漁業)を主たる生業としているが、その一部として生計を営み、自然環境による制約を受けながらも共同体的性格を保ち続け、相互扶助機能を内在しながら特定な地区に集住している。

本研究では、自然発生的に形成された沿海集落(漁業集落)の空間構成を調査し、既往研究¹⁾を踏まえ、立地特性別に比較・検討することを目的としている。

2. 研究対象集落

既往研究での研究対象地である三重県鳥羽市答志島(答志・和具・桃取)・菅島の離島と、比較的類似した環境であるが沿岸域に立地する三重県度会郡南島町阿曾浦・南勢町相賀浦の沿海集落、及び三重県北牟婁郡紀伊長島町(本年度調査地)を研究対象地としている(Fig.1)。

調査地である紀伊長島町は、三重県南部の東紀州地域に位置し、海岸線は大台山系を背景に、屈曲に富んだリアス式海岸になっている。

Tab.1 研究対象集落の概要

	答志	和具	桃取	菅島	阿曾浦	相賀浦	紀伊長島
集落内の全世帯数	366世帯	153世帯	261世帯	215世帯	500世帯	325世帯	4341世帯
調査世帯数	70世帯	42世帯	51世帯	47世帯	54世帯	34世帯	47世帯
有効世帯数	68世帯	41世帯	46世帯	39世帯	53世帯	32世帯	41世帯
全世帯数に対する有効世帯数の割合	19.1%	26.8%	17.6%	18.1%	10.6%	9.2%	0.01%
人口	1500人	601人	995人	848人	1314人	937人	11045人
漁業形態	純漁村	主漁従農村	半農半漁村	純漁村	純漁村	半農半漁村	市街地漁業村
雇人漁獲量	4,725t	1,261t	2,772t	1,514t	1,057t	689t	6685t
雇人陸揚量	3,823t	1,690t	2,772t	1,597t	1,028t	214t	6685t
漁港種別	第2種	第1種	第2種	第2種	第2種	第2種	第1種

平成12年国勢調査、平成14年港勢調査



Fig.1 研究対象集落

3. 分析・検討事項

1) 地形から見た集落

調査対象とする沿岸域の漁業集落は、自然発生的な集落を基礎に形成され、自然の地形を利用した良港を中心にし、不利な地形を長い時間的経過の中で試行錯誤、淘汰されてつくられた自己生成的な集落であり、自然(地形)と共生している集落である。従って、地形を考察することにより、集落の空間構成上の特性を明らかにしようとした(Fig.3 Fig.5)。

各集落のまとまりを作る空間の領域要素として、山・丘・川・浜・磯・海等があげられる。山は囲いとして、川は軸としての要素となり、海は両方の性格をもち、丘は面としての要素となっていることがわかる。

また軸としての領域の要素は、一般に集落の空間構成要素あるいは構成単位をつなぎ、集落空間を支える線的なものとして水系、面的なものとして海があてはまるといえる。

格子状

網目状

分枝状 / 房状

同心円状

京都のように、縦の道と横の道が直行するように構成されているパターン。	さまざまな道が交差し、迷路のように入り組んだ構成をしているパターン。	漁港などにつながる主要な1本の道が通り、それから派生するようにみちを形成しているパターン。房状はこれが海岸線にあたる。	漁港・漁協・舟溜まりなどの漁業に欠かせない場所を中心として、同心円状に路地が形成されているパターン。

Fig.2 道の構成

Research on the location characteristics and space composition of coastal village part1

Masashi OGINO and Takamasa MIYAZAKI

2) 道から見た集落

集落が自然の地形を利用しているならば、道は地形からの影響を受け、方向性を生じる(Fig.2)。本研究では集落の骨格の表現として道を捉え、地形の形状を構成する要素を考えることによって、道の構成を考察し、集落を形成する骨格の一端を見る(Fig.4, Fig.6)。

相賀浦(分枝状)：西側の山から東側の海へ川が流れ、これに沿って主要な道が形成されている。この道から枝状に路地や世古道(細路地)が伸び、平行するように家屋が配置されている。

阿曾浦(同心円状)：東側の舟溜まりを中心として同心円状に路地が広がる。西側に浜があり、その間を南北に走る公道が沿岸域の背後地域へとつながっている。

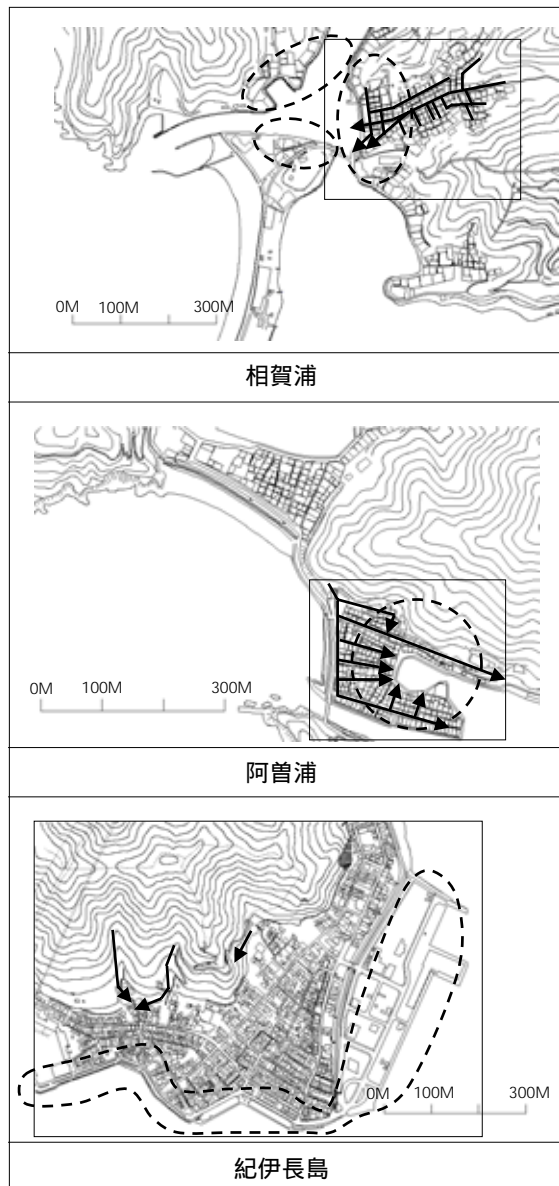


Fig.3 地形からみた沿海集落の分布と河川・水路による集落形成の方向性

紀伊長島(房状)：北側の地域では山沿いの等高線に沿って地割されている。また、南側の海岸付近では直線で地割され、これらはすべて主要な通りを挟んで地割されている。地割は海岸に近くなるほど相似的に小さくなっていく。

答志(格子状)：磯・浜から背後の山へ向かい道が通り、これに直行して各住居へのアプローチの為の路地が自然地形に沿って形づけられている。全体的に、格子状に広がる道の構成をしている。

和具(網目状)：漁港と裏浜の間に住戸群が位置している。漁港から裏浜までの路地は、基本的に漁港側の海岸線と垂直に伸びているが、両側の海(東西)と南側の山の影響で、複雑な網目状になっている。

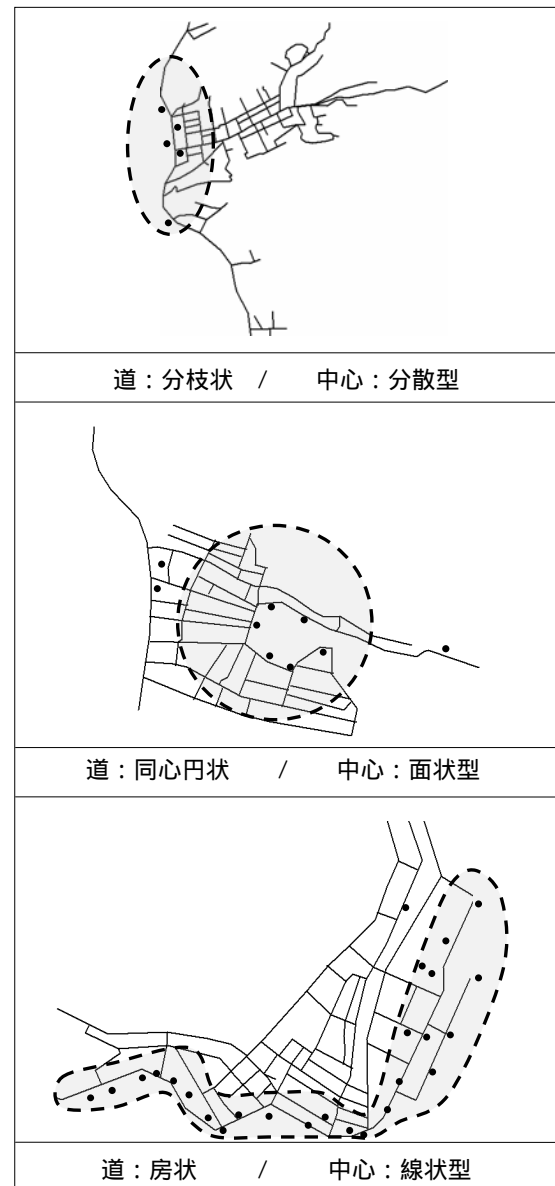
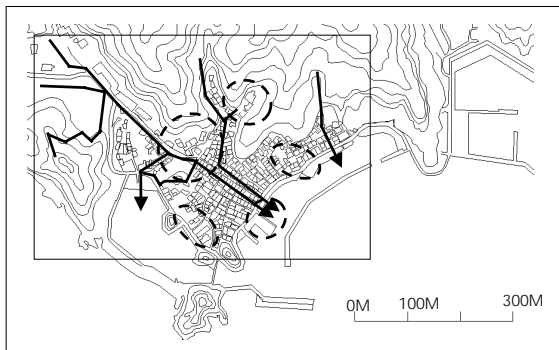
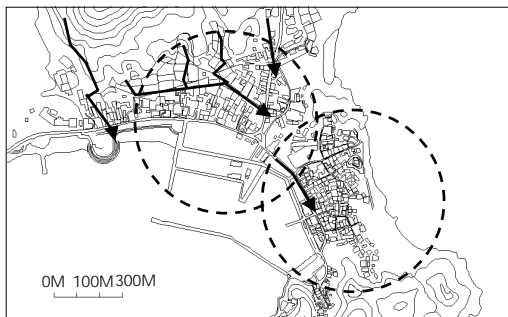


Fig.4 道の分布と中心の形 / 沿海集落

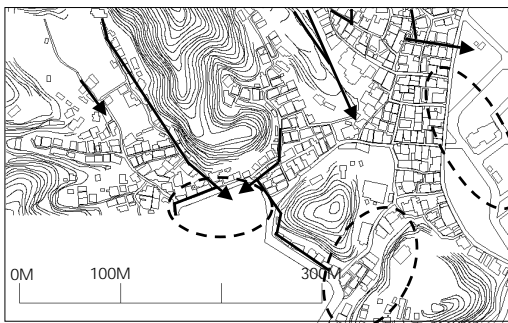
桃取(格子状)：二つの湾が求心力を持つように形成され、この二つの湾を結ぶように主要な路地が延びている。これを中心に不定形な格子状に路地が形成されている。



答志



和具



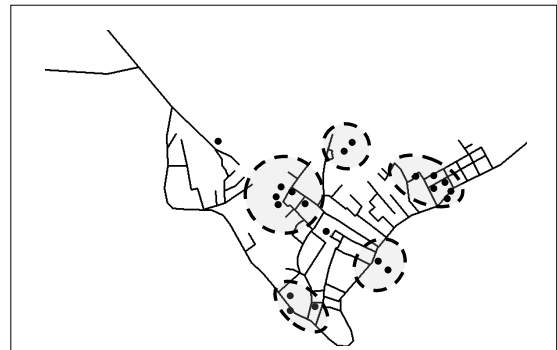
桃取



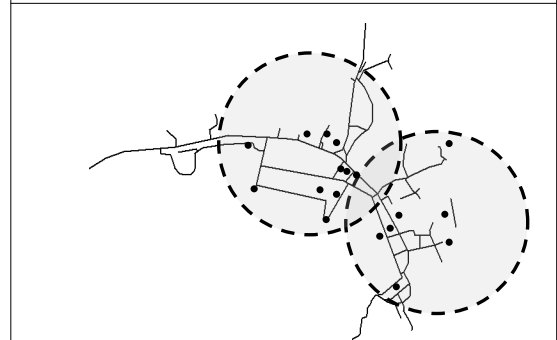
菅島

(○) : 中心の形 --- : 河川・水路

菅島(分枝状)：漁港から集落の中央の山を挟むように、2本の主要な道が走り、その道から枝分かれして路地・世古道を構成し、家屋が配列されている。



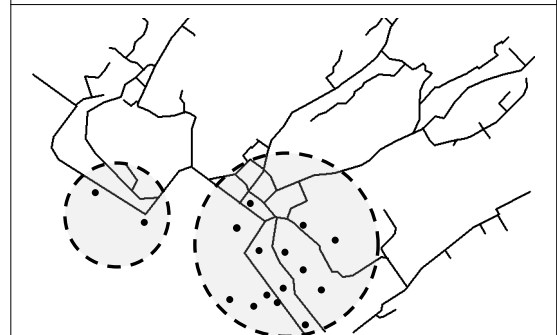
道：格子状 / 中心：分散型



道：網目状 / 中心：点状



道：格子状 / 中心：分散型



道：枝状 / 中心：点状

(○) : 中心の形 ● : 生産施設・公共施設

Fig.5 地形からみた離島集落の分布と河川・水路による集落形成の方向性

Fig.6 道の分布と中心の形 / 離島集落

沿岸域では、近隣の都市・集落と繋がる主要な道路、自然発生的路地を基点として地割され、方向性を増している。離島においては、自然発生的路地はみられるものの、格子や細かく入り組んだ不定形な路地空間を形成する場合が多くみられる。

3) 集落の中心の意味と形態

集落の骨格を表現する道は、港(中心)から道が広がると考えられ、道の構成に影響を与えるとみられる中心性についても考察する必要がある。

中心概念は、すべてが円とその中心のような構造にあるのではなく、多点からなる『中心』、線状の『中心』、円環状(面状)の『中心』、点状の『中心』などがある(Fig.7)。

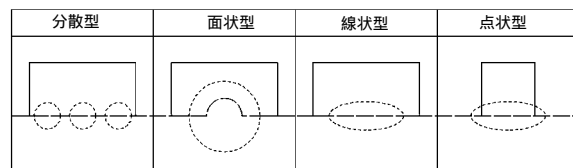


Fig.7 集落の中心の形

漁業集落においては、中核的な働きを持つ海に港を含めた生産施設や公共施設が接し中心性を増して骨格を形成する部分があり中心を形成することがわかる(Fig.4・Fig.6)。

また、全集落で共通していえるのは、海に近づくにつれて行為数が多くなるということ(Fig.8)。この現象は特に離島集落に顕著にみられるが、これは海上交通による移動が欠かすことができず、港を利用せざるを得ないためだと推測できる。それに比べ沿岸域集落では、陸路・水路の二通りの交通が存在するため、中心の求心力は比較的弱くなりやすく、周囲の影響を受けやすい。また、これら中心の強弱は各集落の漁獲量や水揚高にも影響を及ぼしていることがわかる(Tab.1)。



Fig.8 行為観測

4. 総括

本研究では、集落形成のプロセスを集落の空間構成・立地特性上3つの分析方法により検討した。それら3つの分析方法から得られた結果、及び立地条件の異なる沿岸域集落と離島集落との比較・検討後、整理したものを以下に示す。

：地形からみた集落特性のまとめ

沿岸域・離島どちらの集落も山側からのびた川を軸にとり海岸線に向けて塊状・線状に集落が形成されている。

：道からみた集落構成のまとめ

主道は川・海岸線を中心につくられ、双方を中心に道が派生し、面的まとまりを集落に生み出し

ている。また、道の分布が中心の形に与える影響は大きく、集落の性格を決定付けているといえる。

：集落の中心の意味と形態のまとめ

漁業という単一の生産手段によって成立し、形成される漁業集落における海は、要素をつなぐ骨格と同時に生産の場でもあり、核(中心)的な働きを持つ。

自然発生的に形成された沿海・離島集落は地形の差異はあるものの、地形からの軸・道の形成、これによる中心の形の規定というプロセスに違いは見られず、集落形成においては相似関係状にあるといえる。

沿岸域に位置する各集落は地形の利を活かし、面的な中心を持っている傾向が多くみられる。離島においては、漁港整備、漁港の拡大から分散的な中心を持っている傾向がみられる。中心の形状のみで判断した場合、沿岸域の連担性による中心の求心力が離島集落と異なることがあきらかである。

しかし、沿岸域における人口の変動や就業の変化は隣接する大都市や他の地方都市の影響を受けやすく、純粋な漁業集落としての形態を維持・更新する事が困難である。それ故、都市から隔絶されながらも、純漁村として求心力を保ち続けた離島集落とは異なり、沿岸域における中心性は弱まっていると考えられる。

5. 今後の課題

今社会では持続可能性をめぐり議論されている。そこで、離島集落における漁業空間の維持・更新のプロセスを調査・分析していく。

参考文献

- 1) 山本健司・宮崎隆昌：離島集落における空間構成上の特性と個と集団の「距離感覚」の関係性、日本建築学会論文報告集 No.583, pp 9-16, 2004.9
- 2) 宗正敏・宮崎隆昌：沿岸漁村に於ける集落の構成とその特性-志摩・熊野灘沿岸地域の整備計画に関する調査・研究 その1-, 日本建築学会論文報告集 No.270, pp117-125, 1983.8
- 3) 宗正敏・宮崎隆昌：沿岸漁村に於ける集落の構成とその特性-志摩・熊野灘沿岸地域の整備計画に関する調査・研究 その2-, 日本建築学会論文報告集 No.271, pp95-103, 1983.9
- 4) 大内宏友・宮崎隆昌・宗正敏：漁協を中心にとらえた漁港と集落の圏域の構成に関する実証的研究-沿岸漁村地域における圏域の構成その1-, 日本建築学会計画系論文集 No.369, pp72-81, 1986.11
- 5) 大内宏友・宮崎隆昌・宗正敏：漁協を中心にとらえた漁港と集落の圏域の構成に関する実証的研究-沿岸漁村地域における圏域の構成その2-, 日本建築学会計画系論文集 No.382, pp77-86, 1987.12
- 6) 岩田明士：沿海地域における集落の空間構成-紀伊・伊豆半島におけるケーススタディ-, 日本大学大学院修士論文, 1988
- 7) 小柳涼・宮崎隆昌：集住空間における空間構成上の特性-路地と敷地・住居の関連について-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp647
- 8) 地井昭夫：漁業集落の研究とその方法についての考察-漁村計画の方法に関する基礎的研究 その1-, 日本建築学会論文報告集 No.237, pp135-144, 1975.11
- 9) 田中信行・宮崎均・近藤建雄：離島の立地特性、産業特性から見た地域構造の評価-離島地域における生活環境評価に関する研究 その1-, 日本建築学会計画系論文集 No.489, pp249-254, 1996.11
- 10) 田島佳征・渡辺秀俊・畔柳昭雄：高密度住空間における水辺空間の効果に関する研究-居住者の生活習慣より見た水辺空間の効果-, 日本建築学会計画系論文集 No.494, pp277-284, 1997.4
- 11) 畑聰一：漁村住宅の高密度住居形態に関する研究-漁村住宅の実態その1-, 住宅建築研究所 No.7: 新住宅普及会 1980